

# 小学校国語

## 1 小学校国語科の指導と評価について

### (1) 学習指導要領で目指すこと

- ① 実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」
  - ② 未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力など」
  - ③ 学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性など」
- ※ 社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、3つの力をバランス良く育む

### (2) 小学校国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

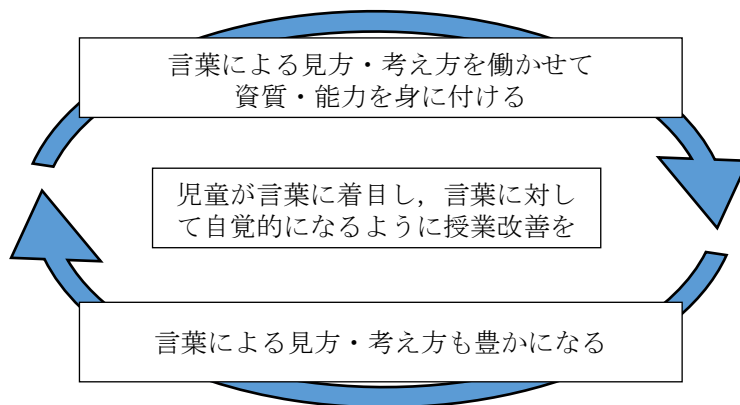
児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。

言語活動は、資質・能力を育成するための手段。

国語科において育成を目指す資質・能力

- ・ 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- ・ 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- ・ 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

### (3) 言葉による見方・考え方と授業改善



国語科において授業改善を進めるに当たっては、言葉の特徴や使い方などの「知識及び技能」や、自分の思いや考えを深めるための「思考力、判断力、表現力等」といった指導事項に示す資質・能力を育成するため、これまでも国語科の授業実践の中で取り組まれてきたように、児童が言葉に着目し、言葉に対して自覚的になるよう、学習指導の創意工夫を図ることが期待される。

### (4) 単元の評価規準の作成のポイント

小学校国語科においては、次のような流れで授業を構想し、評価規準を作成する。

- ① 単元で取り上げる指導事項の確認  
育成を目指す資質・能力を明確にする。
- ② 単元の目標と言語活動の設定  
目指す資質・能力を育成するのに適した言語活動を設定する。
- ③ 単元の評価規準の設定  
指導事項に示された資質・能力を確実に育成するために、国語科では基本的に、指導事項をそのまま単元の評価規準とすることとしている。設定した評価規準について、当該単元の学習活動を通じたBと判断する生徒の姿を具体的に想定することも重要である。
- ④ 単元の指導と評価の計画の決定  
各時間の具体的な学習活動を構想し、単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するかを決定する。
- ⑤ 評価の実際と手立ての想定  
それぞれの評価規準について、実際の学習活動を踏まえて、「おおむね満足できる」状況(B)、「努力を要する」状況(C)への手立てを想定する。

## 2 小学校国語科における1人1台端末の効果的な活用について

### (1) GIGAスクール構想のもとでの国語科の指導においてICTを活用する際のポイント

情報を収集して整理する場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ インターネットを活用して、集めた情報を内容に応じて整理する。</li> <li>○ 収集した情報を各自のフォルダに保存し、データベース化する。</li> </ul>
自分の考えを深める場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の考えを画面上の付箋に書き出し、目的や意図に応じて分類する。</li> <li>○ プレゼンテーションソフト上でスライドを並び替え、自分の伝えたいことが伝わるよう、情報を取捨選択したり、話や文章の構成を考えたりする。</li> </ul>
考えたことを表現・共有する場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ カメラ付きのICT端末を使って録画・保存したスピーチや話し合いの動画を各自で再生しながら良い点や改善点について共有ファイルに書き込む。</li> <li>○ プレゼンテーションソフトを活用して、発表資料をそれぞれ作成する。</li> </ul>
知識・技能の習得を図る場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 古文や漢文等の教材となる動画を視聴し、言葉の響きやリズムに親しむ。</li> <li>○ 書写の指導で、デジタル教科書等を活用し、点画の書き方への理解を深める。</li> </ul>
学習の見通しをもったり学習した内容を蓄積したりする場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各自の目的に応じてスピーチの動画を視聴し、学習の見通しをもつ。</li> <li>○ 以降の学習における様々な学習活動において自分の必要に応じて適宜参照できるように、学習した内容を個人のフォルダに蓄積する。</li> </ul>

### (2) 各学校におけるICT活用の際しての留意点

- ① ICTを活用すること自体が目的化してしまわないように留意し、教育効果を考えながら有効に活用することが重要である。
- ② ICTの学校教育への影響の全てを現時点で予測することは困難であり、児童生徒が日常的に活用することにより、予想しなかった形で児童生徒の可能性が引き出されることもある。

## 3 小学校国語科における情報の扱い方に関する指導の改善・充実について

### (1) 導入の背景

**現 状：**教科書の文章を読み解けていないとの調査結果。文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることが喫緊の課題。

**求められる資質：**急速に情報化が進展する社会において、様々な媒体の中から必要な情報を取り出したり、情報同士の関係を分かりやすく整理したり、発信したい情報を様々な手段で表現したりすること。

話や文章に含まれている情報を取り出して整理したり、その関係を捉えたりすることが、話や文章を正確に理解することにつながり、また、自分のもつ情報を整理して、その関係を分かりやすく明確にすることが、話や文章で適切に表現することにつながるため、「情報の扱い方に関する事項」が新設された。

### (2) 情報の扱い方に関する事項の位置付け

国語科の内容

<p><b>知識及び技能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項</li> <li>(2) 情報の扱い方に関する事項</li> <li>(3) 我が国の言語文化に関する事項</li> </ul>	<p><b>思考力、判断力、表現力等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A 話すこと・聞くこと</li> <li>B 書くこと</li> <li>C 読むこと</li> </ul>	<p><b>学びに向かう力、人間性等</b></p> <p>教科及び学年の目標において示している</p>
--	--	--

「知識及び技能」は、個別の事実に知識や一定の手順のこのみを指しているのではない。国語で理解したり表現したりする様々な場面の中で生きて働く「知識及び技能」として身に付けるために、思考・判断し表現することを通じて育成を図ることが求められるなど、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」は、相互に関連し合いながら育成される必要がある。

子どもが目的や必要性を感じられる課題を設定し、自分自身で思考・判断し、表現して課題を解決することで、「情報の扱い方に関する事項」が生きた力として身に付く。

## 4 参考となる資料等について

- (1) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校国語  
(国立教育政策研究所教育課程研究センター 令和2年3月)